

## 第2回審議会以降の審議会委員の意見交換の概要

第2回審議会での議論を踏まえて、委員相互間（メーリングリスト等）で意見交換を行ったが、主な内容は以下のとおり。

※「○」は第2回審議会までの意見・認識 「・」はその後の意見交換の概要  
「☆」は第3回審議会資料との関連等を整理 「p」は資料2のページ番号

### ■ [コワーキングなどの起業・創業支援]

○長野県富士見町の「森のオフィス」が取組の成功事例として紹介され、「県北振興のアイデアになる」などの審議会での意見あり。

- ・「森のオフィス」は、武蔵野大学から町が借り受けて町内外からなる民間団体に委託して実施。事業は国の補助事業（県費は無し）を活用、コーディネーターは委託を受けた民間団体のスタッフであること等が報告。
- ・県内の起業家支援の取組として「水戸ど真ん中再生プロジェクト」が起業支援施設「M-WORK」を開設することが記事で大きく取り上げられ、運営主体の社長から「水戸の高校生が世界に先駆けて起業する場にしたい。ここから100社のベンチャーが巣立つことを目標に運営していく」との力強いコメントがなされたこと等が報告。

☆Ⅰ・政策1・施策1 [成長分野等の企業の優位②] (p28)、政策4・施策4 [移住・二地域居住の推進②テレワークなどの多様な働き方] で関連記載

### ■ [女性活躍・男女参画]

○女性が過半数を占める本審議会としても、また、人口減少下の状況を踏まえても、県政の重要課題と認識。

- ・「茨城県が県庁の審議会等は女性を半分入れるといった方針を打ち出せば先進的なイメージが確立できるのでは」との提案もあったが、「性別だけでなく地域・職業・世代などの多様性を担保することが大事で、無理に女性を入れようとすると数合わせのようで違和感も」との意見も。
- ・「男女隔てなく同じ条件で社会で活躍できる環境を整備することが重要。例えば、男性の育児休業が当たり前になるようなことを目指して企業や行政が率先した取組を打ち出すことが必要では（場合によっては条例化も）」との提案もあり。
- ・一方、「自然な形で意識改革され共同参画されることがよい。男だから、女だからという枠が強調されない方がいい」との意見も出されている。
- ・また、「女性の大活躍推進福岡県会議」のように産業界（九州経済連合会等）主導で「女性大活躍推進自主宣言（女性管理職の登用目標数値等）」が企業・団体（約400団体）によってなされるなどの取組みも参考になるのでは。

☆Ⅰ・政策4・施策2 [女性が輝く環境づくり①②③] (p34)で、女性活躍に関する事業者のトップの意識改革、男性の家事・育児等への参画促進等が記載。

☆Ⅲ・政策15・施策1 [誰もが能力を発揮できる社会②] (p62)で関連記載。

### ■ [わくわくするキャッチフレーズ]

○県政のキーワードが「挑戦」となっているが、さらに、「わくわくする」キャッチを考えるべきではと第2回審議会でも多数の意見あり。

- ・「躍進」「レボリューション」のような曖昧な言葉でなく、「いばらき革命」ぐらい強い言葉で言えたらどうかとの提案あり。
- ・審議会が「県民の意識改革」を促すという次のようなスタイルがよいのでは、「挑戦」だけでなく、「思いやり」という両面を打ち出すことが県民に受け入れやすいのではといった意見が出され、次のような素案が提示された。

「いばらき革命」はじめます！  
 ～県民が日本一幸せな県「チャレンジ&ハートフルいばらき」の実現のために  
 [改革に当たっての県民の心構え5箇条]  
 ①「いいのもいっぱい」をよく知り、自慢し、それを育てていきます。  
 ②自分や地域の「能力を最大限に発揮させる」ことに最善を尽くします。  
 ③「難しい」であきらめず「こうすればできる」と工夫していきます。  
 ④物事は、「みんなで意見を出し合い、議論し、決めて」いきます。  
 ⑤すべての人が「助け合い」、すべてに対し「思いやり」を大事にして取り組みます。

- ・これを基本に委員相互で検討を加え、現時点で、三浦委員提出資料のような形となっている。

### ■ [医師不足対策]

- 医師不足対策は、「医師不足緊急対策行動宣言」が発出され、県政の「目の前の1丁目1番地」の重要政策であるとの審議会での認識あり。

- ・本当の問題は医師の「数」よりも「地域」と「診療科」の偏在。
- ・「地域の偏在」については、義務年限が過ぎたときに地域に愛着がある医師や地域枠などのある程度の義務のある医師、大学医局の協力などにより総合的に取り組む必要がある。
- ・「診療科の偏在」はもっと難しい。若い医師は皮膚科、眼科等のマイナーな科を最初から志望する傾向もある。産婦人科などは閉院の話もあり、この大変さから若い医師の志望が少ないのでは。大きな病院に産婦人科や小児科がきちんとあって、医師がその良さや、やりがいを若い医師にアピールしていくことが効果的。ただ、アピールする医師そのものが不足しており、例えば「いばらき医療大使」が連れてきてくれるなど、「茨城県医師不足緊急対策行動宣言」の「攻めの姿勢での新たな視点からの医師確保」の取組みを結集する必要があると思う。

☆Ⅱの重点施策で医師不足緊急対策が選定され (p39)、また、関連施策がⅡ・政策6・施策1に記載 (p40)。同④で「地域偏在」への取組みが記載。「診療科の偏在」への取組みは明確な記載なし。

### ■ [外国人をサポートする体制の整備]

- 「優秀な外国人をサポートする政策が素案に全く入っていない」との審議会での指摘あり。

- ・つくば市の「生活便利帳（英語、中国語）」や「市域マップ（同）」の作成配布などの日本語がわからない外国人への支援や、「（外国人に対する）日本語学習機会の充実」など、双方向性の取組を県レベルでも徹底することが必要との意見あり。
- ・「優秀な外国人研究者がすぐ帰国してしまうこともあり、外国人家族へのサポートも重要」、「外国人と日本人の交流が圧倒的に不足している」との指摘あり。

☆Ⅲ・政策15・施策1 [誰もが能力を発揮できる社会③] (p62)で関連記載。

## ■ [公共交通、交通対策の考え方]

○「高校生になって行動範囲が広がる移動をサポートするシステムが必要」、「自動運転の実証特区をつくば～日立港ぐらいまでつくってみては」、「公共バスの効率的活用」等の審議会での意見あり。

・これらを踏まえて、「誰もが（自動車を運転しない人も）生活しやすいモビリティの実現」などの文言が基本計画にあってもいいのではないかとの意見あり。

☆Ⅱ・政策9・施策1 [地域公共交通の維持確保①] (p46)でマイカーなしでも安心して日常生活・・・、Ⅳ・政策20・施策1 [未来の交通ネットワークの整備⑤] (p74)で自動運転の実証試験等の記載。高校生通学支援等の記載はなし。

## ■ [茨城を説明・PRできる人材の配置]

○「アンテナショップでの観光案内をスペシャルにできる人材が必要」の一方、「人を張り付けなくてもテレビ電話等で観光協会に結ばばいい」との審議会での意見。

・「AI搭載で茨城のことなら何でも答えてくれる人型ロボットを茨城マルシェに置くとか、この際、茨城のイメージキャラとしてのロボットをつくってはどうか」、さらに、「観光客の『ここに行ってよかった』といった口コミをロボットにフィードバックさせ双方向のやりとりができるようにすることも一考」との提案あり。

☆Ⅳ・政策16・施策1 [魅力発信国内戦略③④] (p66)で関連記載。

## ■ [「食・農・自然の王国」の実現に向けて]

○「『食と自然環境、農業といった人間の根源』と『技術革新』をかけ算で考える思い切った舵取りがあると将来のポテンシャルの高い事業が打ち出せるとの審議会での提案あり。

・4つのチャレンジで推進していく活動と茨城県が誇るべき「食・農・自然」に関連させていくと、茨城県のブランドイメージが明解になるとの指摘があり、小祝委員提出資料のような形で提示された。

☆茨城のポテンシャル・第3節・全国をリードする農林水産業(p8)でいばらきブランド化が記載。4つのチャレンジと重要な政策が連動する形での取組を進める上での理解が深まると期待。

## ■ [人財育成の方向性]

○「閉塞感があるとか、意見が言いづらい雰囲気があるとかの点が、人口減少、人を呼び込めないといったことにつながる」、「意見をきちんと言い、話し合い、議論し、結論を導くといったことを根付かせる＝地方自治を充実することが定着に結びつき、地域の魅力を高める」「茨城は予定調和圧力がすごくて、とんがった意見を言うとなぐたたかれる。争いになることをすくなくいやがる。このようなことを克服する必要がある」との審議会での意見。

・「グローバル社会へ飛び立ち活躍できる」ことを目標とすることも大事であるが、「地域を支える人財」という観点からの取組が必要ではとの意見あり。

☆Ⅲ・政策11・施策7 [地域力を高める人財育成] (p55)で、「学びの成果を地域社会に還元する取組を推進」などとして関連掲載。